

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 1 1 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 1 1 月 3 0 日 )

調査期間：平成 1 9 年 1 1 月 1 6 日 ~ 2 2 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 6 卸売業 2 3 5  
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況 ( D I 値を集計 )  
および、業界として当面する問題など

D I 値 ( 景況判断指数 ) について

D I 値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 業況D Iは3カ月連続、仕入単価D Iは9カ月連続で悪化

11月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（34.9）よりマイナス幅が1.2ポイント拡大して36.1となり、3カ月連続で拡大した。

産業別の業況D Iは、建設、サービスでマイナス幅が縮小したものの、他の3業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、気温低下の影響などによる売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、消費の低迷による売上減少などを訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「昨年に比べ、今年は受注が順調」（電気工事業）との声がある一方、「公共工事の減少、原油価格の高騰により、採算確保が困難な状況」（一般工事業）、「建築基準法改正の影響により、着工件数・新築工事の減少を懸念」（電気工事業）との声が寄せられている。

【製造業】からは、「自動車関連を中心に、設備の受注が堅調」（自動車・附属品製造業）との声がある一方、「原材料の値上げ分を販売価格に転嫁できず、収益の減少が拡大傾向」（金物類製造業）、「建築基準法の改正により、受注の減少に加え、売上が大幅に悪化」（製材木製品製造業）との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「学校行事等の予約増加により、売上高は前年並みに回復」（各種商品卸売業）との声がある一方、「原油価格の高騰による経費の増加を販売価格に転嫁できず、厳しい状況」（建築材料卸売業）、「仕入価格に加え、運送費など物流コストも上昇傾向」（各種商品卸売業）との声も寄せられている。

【小売業】からは、「気温の低下により冬物衣料・暖房用品の売上が好調」（百貨店）との声がある一方、「仕入れ価格の上昇に対し、販売価格は据え置きのため、採算は厳しい見込み」（商店街）、「ガソリン・灯油や生活用品の値上げによる影響で、消費者の買い控えを感じる」（商店街）との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「観光客の増加により、売上は良好」（旅館）との声がある一方、「暖房費の支出に原油価格の高騰が重なり、収益確保は厳しい見込み」（食堂・レストラン）、「食料品価格の上昇で、採算が悪化」（その他の一般飲食店）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.1ポイント縮小して27.7となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで拡大したものの、他の2業種で縮小した。

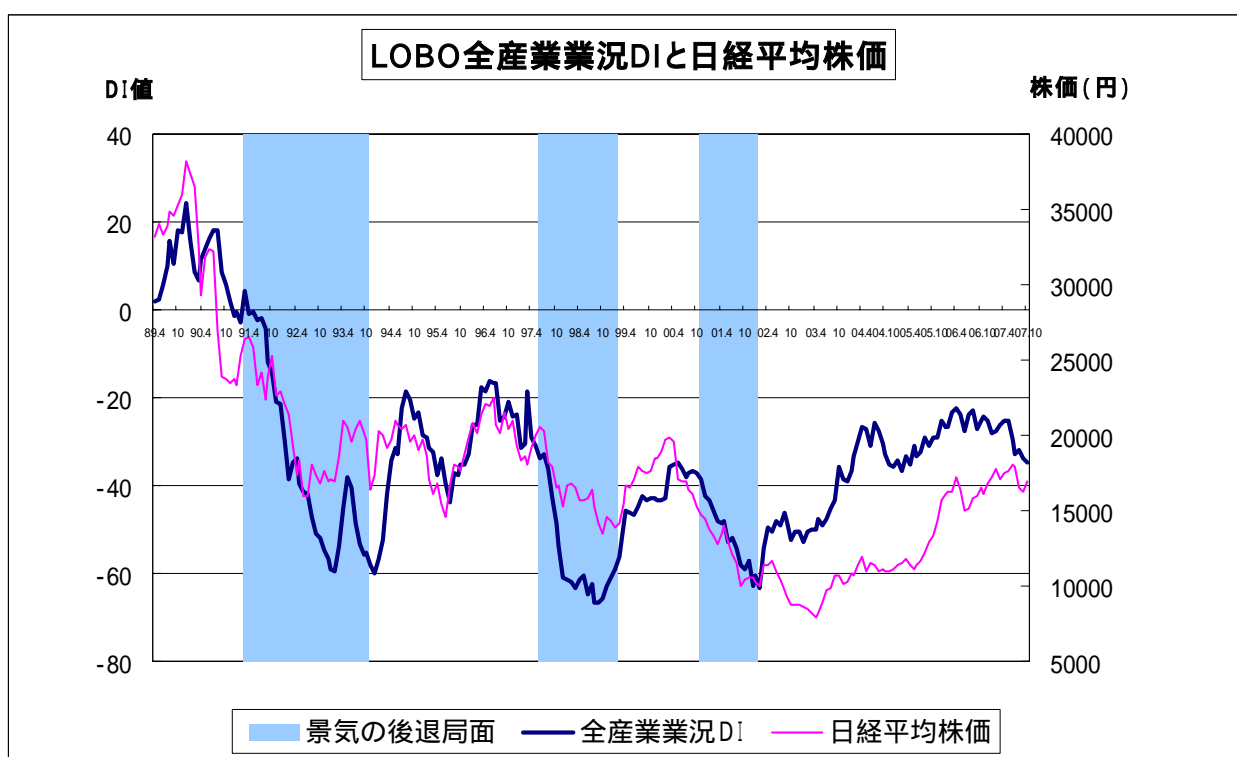
採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.1ポイント拡大して35.6となり、3カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りD Iは、悪化超感が0.4ポイント強まって22.2となり、3カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の悪化超感度は建設、小売で縮小したものの、他の3業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が3.9ポイント強まって39.8となり、9カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感はずべての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、過剰超感が0.5ポイント強まって0.8となり、2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、D I値はサービスで不足超感が強まったものの、製造、小売で不足超感が弱まり、建設、卸売で過剰超感が強まった。

向こう3カ月(12月~20年2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が34.9と、昨年同時期の先行き見通し(19.9)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（34.9）よりマイナス幅が1.2ポイント拡大して36.1となり、3カ月連続で拡大した。

産業別にみると、建設、サービスでマイナス幅が縮小したものの、他の3業種で拡大した。

向こう3カ月（12月～20年2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が34.9と、昨年同時期の先行き見通し（19.9）に比べて悪化している。

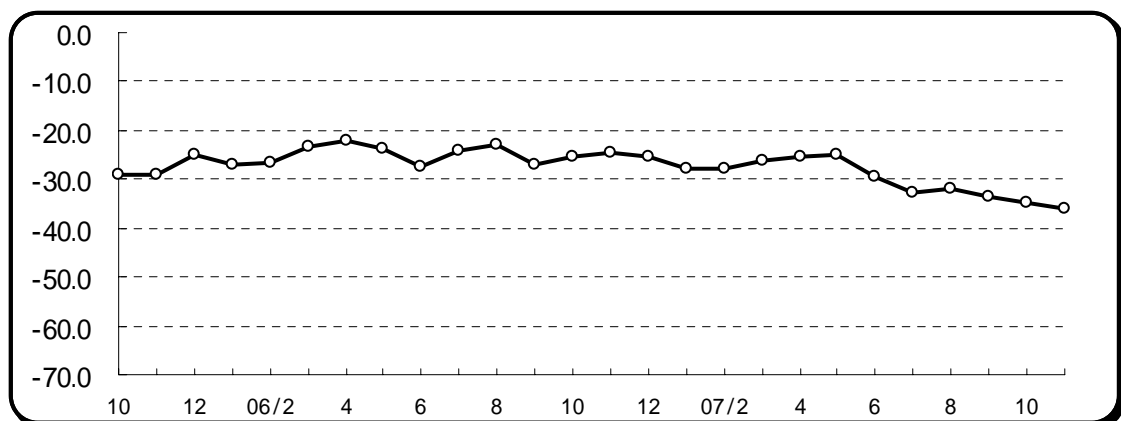
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	29.5	32.8	32.0	33.6	34.9	36.1	34.9 (19.9)
建設	46.0	43.5	44.3	45.4	47.2	46.8	50.2 (37.8)
製造	23.4	26.3	23.5	27.5	27.0	29.2	31.7 (14.8)
卸売	39.4	42.6	48.4	41.1	44.3	45.6	36.5 (23.0)
小売	26.5	31.4	31.1	33.8	33.8	36.0	33.6 (15.8)
サービス	24.5	30.8	27.9	29.1	33.0	32.6	29.4 (17.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
( )内は昨年11月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.1ポイント縮小して27.7となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで拡大したものの、他の2業種で縮小した。

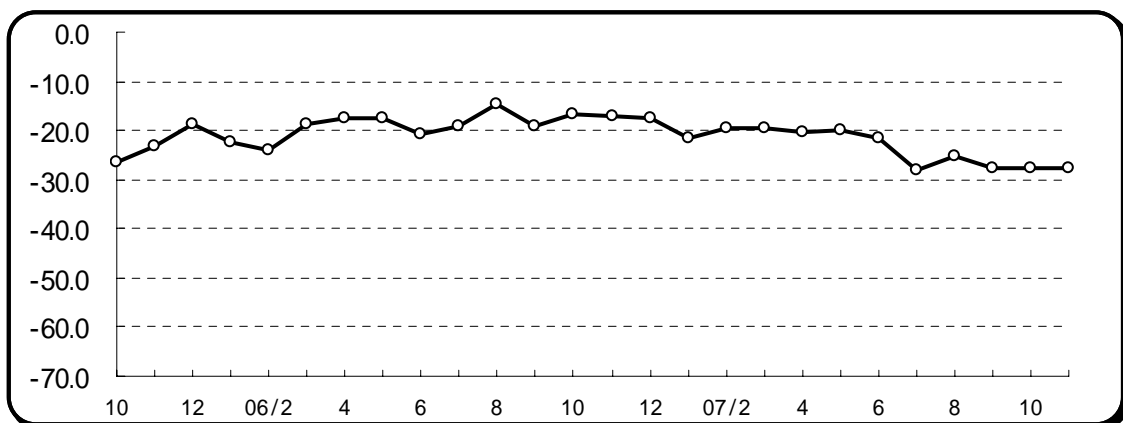
向こう3カ月(12月～20年2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が25.4と、昨年同時期の先行き見通し(12.9)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	21.4	28.2	25.1	27.5	27.8	27.7	25.4 (12.9)
建設	37.9	34.3	37.9	37.5	39.8	45.2	46.2 (30.2)
製造	10.7	20.1	12.1	16.1	19.0	18.0	22.8 (8.4)
卸売	30.6	35.2	43.2	39.9	33.5	33.8	25.2 (15.1)
小売	19.7	31.2	27.7	30.8	29.7	26.4	20.8 (9.5)
サービス	20.3	26.5	20.6	23.8	24.7	25.8	20.4 (9.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.1ポイント拡大して35.6となり、3カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はすべての業種で拡大した。

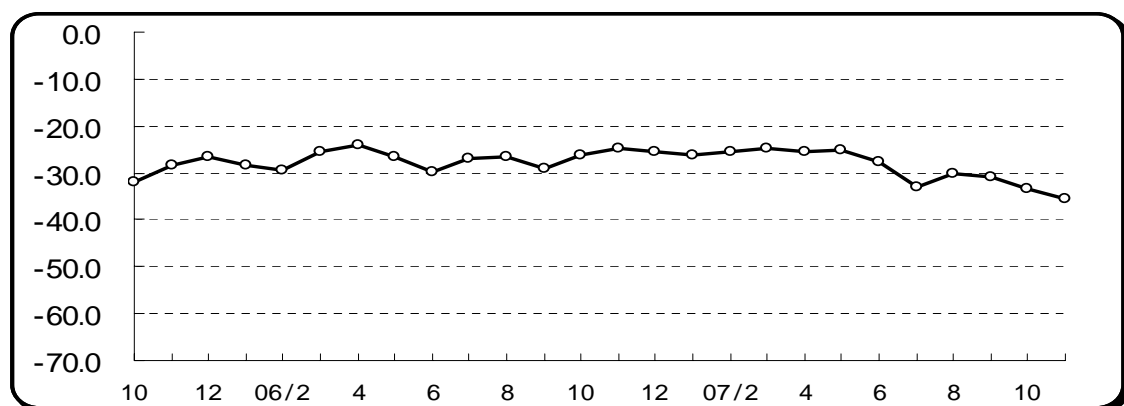
向こう3カ月(12月～20年2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が33.3と、昨年同時期の先行き見通し(18.5)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	27.5	33.2	30.3	30.9	33.5	35.6	33.3 (18.5)
建設	44.3	45.7	40.2	43.8	46.3	50.0	49.4 (35.3)
製造	28.6	34.1	28.5	30.7	32.8	33.7	36.5 (16.7)
卸売	26.3	33.3	39.1	29.4	33.5	36.3	26.4 (19.9)
小売	20.9	27.1	27.3	27.6	30.6	31.4	28.5 (11.2)
サービス	23.7	31.3	25.8	27.4	29.4	33.1	28.0 (18.0)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	19.8	21.8	19.5	19.7	21.8	22.2	22.7 ( 16.5)
建設	34.3	35.5	34.6	35.1	37.6	34.5	37.7 ( 30.0)
製造	16.8	21.3	16.0	18.3	18.0	19.4	21.8 ( 13.9)
卸売	18.6	19.7	22.3	15.2	19.9	23.2	19.9 ( 13.9)
小売	16.8	18.1	18.0	17.8	19.3	17.1	19.1 ( 11.8)
サービス	16.1	17.1	12.6	13.7	18.2	22.0	19.3 ( 17.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月連続で強まった。産業別にみると、建設、小売で悪化超感が弱まる一方、他の3業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	30.1	32.4	33.0	34.7	35.9	39.8	39.9 ( 18.6)
建設	41.5	43.3	43.1	43.6	43.7	47.4	47.6 ( 26.2)
製造	47.3	51.2	50.0	51.3	50.2	54.4	48.9 ( 28.2)
卸売 あ	26.3	27.8	31.6	33.6	26.6	30.0	31.9 ( 21.1)
小売	15.5	17.6	18.1	22.3	26.2	29.9	32.8 ( 10.5)
サービス	23.5	25.1	26.4	27.1	31.4	35.2	37.0 ( 12.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が9カ月連続で強まった。産業別にみても、すべての業種で上昇超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	0.2	2.3	1.3	0.9	0.3	0.8	4.4 ( 2.0)
建設	17.9	16.6	16.7	13.6	15.0	15.5	16.6 ( 14.0)
製造	2.0	1.7	0.5	0.5	1.7	0.0	10.5 ( 4.0)
卸売	3.1	4.3	7.7	7.2	1.3	1.9	11.6 ( 6.8)
小売	6.0	3.0	4.2	6.6	5.3	4.5	3.9 (3.6)
サービス	2.7	0.5	2.9	0.5	0.5	1.8	3.2 (3.2)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、サービスで不足超感が強まったものの、製造、小売で不足超感が弱まり、建設、卸売で過剰超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで横ばい、小売で不足超感が強まる一方、他の3業種で過剰超感が強まる見通し。



【平成19年11月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「仕入価格の値上がりに加え、原油価格高騰の影響による今後の採算の悪化を懸念」(帯広・一般工事業)、「厳しい経営状況に加え、通常、年末年始はさらに悪化の見通し」(水俣・製材木製品製造業)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「大型商業施設のオープンなど競合店が増加し、今後も厳しい状況が続く見込み」(鹿児島・百貨店)、「原油価格が高騰する一方、冬期は暖房等に石油を多く消費するため、収益が圧迫される見込み」(酒田・旅館)、「昨年同時期に比べ来客数が減少、今後、更なる悪化を懸念」(土佐清水・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

仕入コスト上昇

また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原材料価格の値上がりに対し、受注金額の値上げが困難なため、採算が悪化」(中野・一般工事業)、「現在は売上の好調により仕入コストの上昇分を吸収できているが、売上が減少した場合の影響を懸念」(横浜・輸送用機器製造業)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「食料品を中心にメーカーからの値上げ要請に加え、包装材等の経費も増加」(札幌・百貨店)、「食料品や消耗品の値上げが続き、価格転嫁を避けられない状況」(京都・旅館)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

さらに、原油価格の高騰に伴う各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による悪影響を挙げる声も寄せられている。卸売からは、「食料品の値上げが続き、消費者の買い控え傾向が強まっている」(福島・農畜産水産物卸売業)小売からは、「家庭でのガソリン代・暖房費支出の上昇による、売上の減少を懸念」(船橋・百貨店) サービスからは、「原油価格の高騰により個人消費が低迷、宿泊数の確保は厳しい状況」(金沢・旅館)、「食料品価格等の上昇の影響から、年末に向けての期待感は薄い」(館山・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
19年	9月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	猛暑の影響
	10月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	気温低下の影響
	11月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月連続で拡大した。「受注は確保できているが、材料費・原油価格の値上げにより、利益が減少」(左官工事業)「原油価格の高騰が、配送運賃の上昇に大きく影響」(一般工事業)「材料費の高騰等による先行き不安から、廃業する会社が増加」(一般工事業)「建築基準法改正の影響により、着工件数が激減。今後も不況が続くことを懸念」(建築工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大、売上D Iは3カ月ぶりに縮小した。「輸出高は昨年以上に増加」(織物製造業)との声が寄せられる一方、「出荷量は対前年比で増加しているが、燃料費の高騰により採算は悪化」(窯業)「依然、業況は改善せず従業員も過剰状態。採算も厳しい状況」(金属加工機械製造業)「原油価格の高騰に伴い、運送費用が大幅に上昇」(食料品製造業)「建築基準法改正の影響により、住宅着工を含め業界は最悪の状況」(製材木製品製造業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「各商品の値上げが相次ぐ一方、消費者の理解を得るのは困難」(食料・飲料卸売業)「仕入価格の上昇に加え、大型店の新規参入など競争激化により、経営は厳しい状況」(その他の卸売業)「10%前後の売上の減少が続くも、打開策が見出せない状況」(衣服・日用品卸売業)「原材料価格の上昇による製品価格の値上げが予想される中、販売価格へのスムーズな転嫁が今後の大きな課題」(農畜産水産物卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは6カ月連続でマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月連続で縮小した。「気温の低下により、衣類・家電品を中心に冬物商品の売上が増加」(百貨店)との声が寄せられる一方、「来客数が減少傾向であるのに対し、空き店舗は増加」(商店街)「他店との競合に加え、原油高による経費負担の増加を懸念」(百貨店)「個人消費の低迷により、年末年始の売上は厳しい見込み」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上・採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「原油価格の高騰に伴う光熱費の増加と食材費の値上がり、収益を圧迫」(旅館)「燃料価格の上昇を配送運賃に転嫁できず、採算が悪化」(事業共同組合)「来客数の減少により、売上は前年同時期に比べ減少。今後も厳しい状況が続く見込み」(一般飲食店)「人件費等の経費が増加し、採算は悪化」(ソフトウェア業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、関東、東海、近畿でマイナス幅が縮小したものの、他の5ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は3カ月連続でマイナス幅が拡大した。

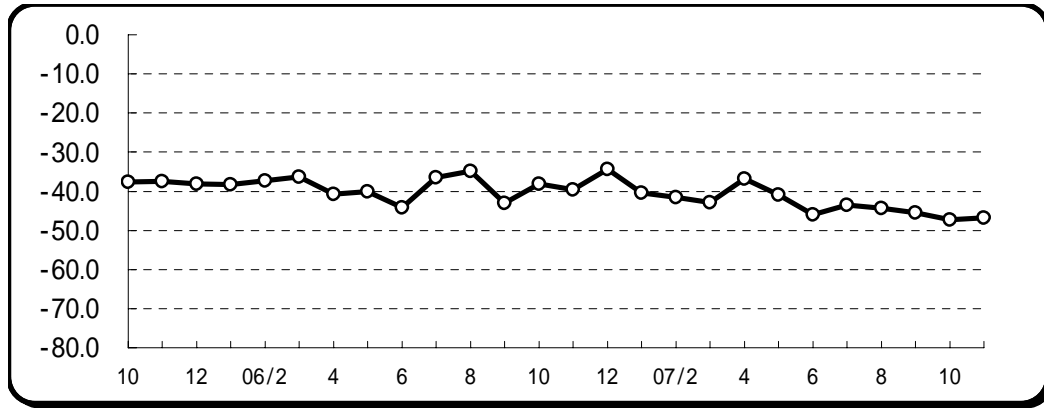
ブロック別の向こう3カ月(12月~20年2月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。なお、全ブロック合計も悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

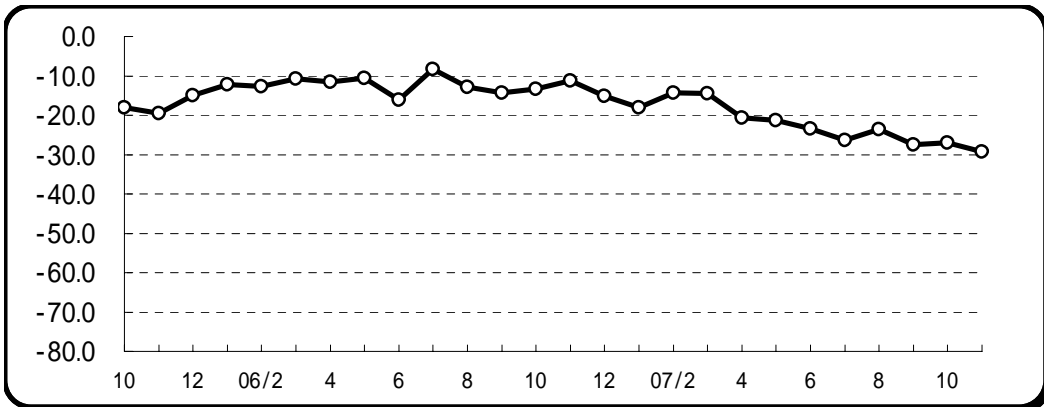
	19年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全 国	29.5	32.8	32.0	33.6	34.9	36.1	34.9 ( 19.9)
北 海 道	33.3	36.4	37.1	35.5	39.8	46.5	42.5 ( 21.7)
東 北	32.1	36.6	31.7	34.8	39.0	36.8	42.6 ( 24.5)
北陸信越	33.9	39.2	30.3	34.9	31.6	35.5	37.8 ( 16.5)
関 東	24.1	29.3	27.8	30.3	31.7	29.9	27.3 ( 13.6)
東 海	24.4	28.6	30.2	32.9	33.1	32.5	34.1 ( 18.0)
近 畿	26.9	31.1	31.4	32.2	37.1	32.5	37.2 ( 31.4)
中 国	35.7	36.6	39.8	44.0	38.8	41.2	34.1 ( 23.0)
四 国	41.5	33.9	43.1	42.3	35.3	46.6	36.6 ( 23.4)
九 州	28.0	32.0	29.5	26.1	35.1	40.1	35.8 ( 13.2)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

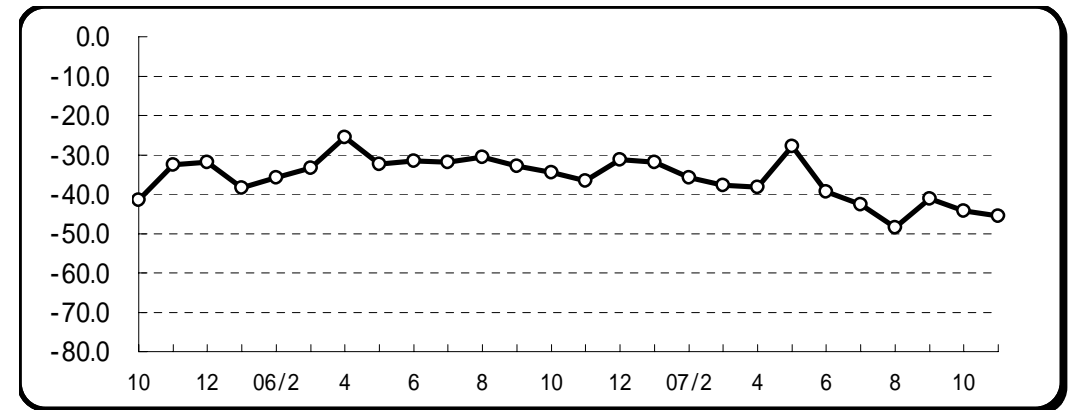
## 建設業



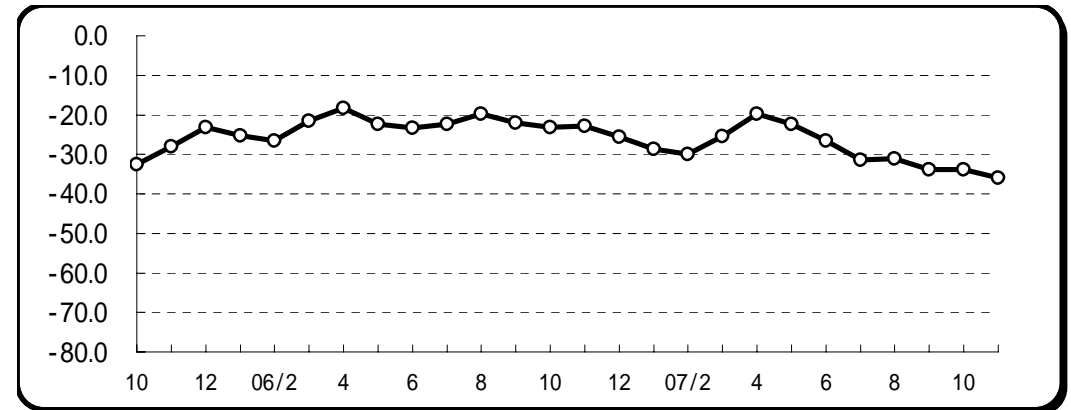
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

